

⑦4 女川町地方卸売市場荷捌場・管理棟建設工事

受賞機関 宮城県 女川町

キーワード ECI発注方式、工期短縮、高度衛生管理

全建賞審査委員会の評価ポイント

東日本大震災による津波で壊滅した女川町地方卸売市場を、水産庁の衛生管理基準レベル3対応で、ICTを活用したトレーサビリティに対応した新たな市場に整備した事業。発注・施工において復興事業では新たな取組であるECI技術提案交渉方式を採用し、そのために発注者支援としてCM方式を採用したことにより、建設コストの縮減や通常より1年工期短縮した点が評価された。

1. はじめに

平成23年3月11日に発生した東日本大震災の大津波で女川町は壊滅した。町の基幹産業である水産業の早期復興のためには魚市場を早急に復旧させる必要があった。

2. 事業の概要

1) 事業の早期完成のためECI発注方式の採用

従来発注方式では早くても施設の完成は平成29年度後半と考えられた。一方、今回採用したECI方式では、実施設計中に施工者を技術提案により選定し、施工技術提案や工事準備を先行することにより、約1年ほど早く完成することができた。また、工事費を施工者に参考に聴取するため、確度の高い事業費の算定が可能となった。

施工者の選定段階では、①荷捌場の工期短縮、②工事期間を確実にするため、地盤調査からの技術力の高さ、③施工会社全社を挙げて当事業をフォローする組織力、④水揚げを行いながら工事を進めるスケジュール管理能力、⑤町全体の復興計画との整合性などを学識者等により審査し選定した。



1年早く完成した女川町地方卸売市場

2) 10年以降を見据えた食の安全安心の確保

女川町地方卸売市場は水産庁の衛生基準レベル3を達成し、かつ、効率的な荷捌きが可能である。陸揚げの魚種ごと、季節ごとに違った作業時間等を考慮し、衛生管理上、作業動線が輻輳しないよう工夫されている。このため陸揚げから出荷まで停滞が無いよう計画されている。例として女川で取扱金額の高い養殖銀鮭では整備前に3時間かかっていた作業が1時間に短縮され、鮮度の向上と労働環境の改善に寄与している。

また、衛生管理記録を電子的に行うことにより現場で起きているエラーが捉えやすい。取れた魚の量や場所、計量から入札、出荷までの一連の情報が管理され、水産物トレーサビリティにつながる産地証明も効率的に発行が可能となっている。



自然光で明るい作業空間

3. 事業の成果

完成した平成29年には、女川魚市場の水揚げ量は前年比20.0%増の4万2744トン、金額は79億2813万円と回復した。これによって女川町の水産業は回復の糸口をつかむこととなり、その後も水揚げ額を維持している。

4. おわりに

復興事業の開始時点では、多くの課題が有り、どこから手を付けて良いかわからない状況であったが、魚市場を復興させるという必須の目標の元、関係者が英知を集結させ早期の完成に至った。当事者である女川町、女川魚市場はもとより、水産庁、宮城県の他、多くの事業の関係者の結束により出来上がった女川町地方卸売市場は、食の安全安心を基本に、HACCPの考え方を取り入れた品質衛生管理をこれからも推進していきます。

賛助会員 鹿島建設(株)、(一財)漁港漁場漁村総合研究所